

横浜 SSJ ニュース

第 27 号
2019 年 4 月 30 日発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人 横浜市精神障がい者就労支援事業会）

〒232-0022 横浜市南区高根町 3-17-12 KS ビル 6 階

TEL 045-315-2622 FAX 045-315-2623

発行責任者：理事長 菊地 綾子

編集：横浜 SSJ ニュース編集委員会

印刷：ワークショップメンバーズ

やっぱりコミュニケーション

理事長 菊地 綾子

冬の寒さの中、まだかまだかと待たれた梅の開花、そして満開程なく散って、今度は桜とチューリップと菜の花。今年も年度末、年度初めを迎えました。

毎年暮れから新年にかけて横浜 SSJ では全職員へのヒヤリングと 3 月には従業員さんの契約更新のための面談を行っています。1 年間どのように仕事をしてきたか？よかったこと、困っていること。法人に対して求めること。自分自身の課題や仕事場への要望等も語られます。100 名を超える方々へのヒヤリングと各施設でのメンバーミーティングや個人面談から上がってくる意見をまとめ、来年度の事業計画を作成する作業に入っています。

ここのところ問題になっているのは厚生労働省による統計の取り方に不正があったこと。統計に基づいて様々な施策が実施されるのに、その統計自体が都合のよいように改ざんされているとしたらどうしようもならない。アベノミクスとやらの景気の動向も怪しいという話が持ち上がっています。

もう一つ目についたのは、どの企業も採用に際して第一番に重きを置いているのはコミュニケーション力だそう。御多分に漏れず当法人横浜 SSJ でもいろいろな場面で「コミュニケーションは取れていますか？」と尋ねるが、ことほど左様に簡単に運ばないのもこの「コミュニケーション」なのではないでしょうか？果たして職員間、利用者と職員間、利用者同士ちゃんと意思疎通が図れているかどうか気になるところです。ちなみに「理事会がなにをやっているのかよくわからない」というご指摘もよくいただきます。

ということで、約 200 名の在所の行く先を決める 200 通りのご意見を前に頭をひねる春爛漫の季節なのです。でも、とても感心していることがあります。それは従業員さんが不眠・幻聴・不安発作・自信が持てない・体調不良・家族の心配等々、不安材料がいっぱいあって、お聞きしているうちに大丈夫かな？？と心配になりながら「契約更新ですが、来年度も続けてお働きになりますか？」とお聞きすると「はい、大丈夫です。働かせてください。日数も増やしてください」と途端にきっぱりと声にも力がこもり意欲を示される方がほとんどです。そして、現場に行ってみると皆さん本当に生き生きと働いておられます。これは、やはり日頃から各事業所、職員も従業員もメンバーも苦勞を抱えながら乗り越えて、安心して働ける場作りに努力しているからだと思います。こうした自己実現につながる大切な働く場を守るために、やっぱりコミュニケーション力をつけて、上がってきた思いや意見を曲げることなく大事に扱って事業運営に生かしてゆきたいと願っています。新しい元号で始まる新年度、確かな歩みを続けてまいりますので、よろしくお願いいたします。

―戸塚事業所・滝頭事業所 20 周年、常盤公園 10 周年 記念式典―

「20 年を振り返って、そして、これから・・・」

戸塚斎場で、今まで働いて 1 番困ったことは、女性のお客様二人が、2.3 寸の覆いを買いに来られた時でした。その時、僕もリーダーになって、それ程経ってなく、覆いだけを買に来るお客様はいなかったもので、早合点して骨壺も出してしまいました。そうしたら、お客様が怒り出して、色々なことを言われました。初めて、お客様が怖いと思いました。僕は、ただ黙って聞いているだけでしたが、色々な、お客様がいるなぁと勉強になりました。その日の夜、(現在、事務局長の)星野さんに今日あった事を電話で話しました。次の日も仕事で、嫌な気持ちが残っていましたが、星野さんが来てくれて早くあがらせてもらいました。星野さんには、感謝しています。



今まで働いて 1 番嬉しかったことは、当事者職員になったことです。お金を扱うので、今までにない緊張感や責任感、一日を回していく使命感を感じました。そして、恵まれていたのは、自分のやり方でやらせていただいたので、細かな指示出しなど、今やるべき事に集中出来た事です。



次の目標は、少しずつ勤務日数を増やしていただき、常勤の職員になる事です。何年掛かるかは解りませんが、自分がつぶれないよう頑張っていきます。

(久保山・戸塚事業所 寒河江 明広)

11 月 30 日の記念式典に参加させていただきありがとうございました。式典で過去にお世話になった SSJ の職員及び従業員に再会して、また激励していただき感謝の念にたえません。SSJ 事務局の皆様には雇用していただき、また今回の体験もふまえてこれまで以上に仕事に対して真剣に向きあわないといけないと思いました。

仕事以外にも社会性、協調性、集中力の向上につとめ、人々の多様性を認め、自分の弱さに向き合い、緊張感を持たないといけないと思います。2019 年度の皆様の御健勝と御多幸をお祈りします。

(滝頭事業所 菊池 将浩)



事業所の発表の時は緊張してしまった。

食事がとてもおいしく楽しいパーティーだった。

(滝頭事業所 水口 浩一)

11 月 30 日の記念式典は横浜 SSJ の職員の方、事務局の清水さんやジョブコーチの星野さん、カフェガーデンさらの関係者の方に御膳立てして頂いて、落ち着いた和やかな気持ちで会に参加をして食事を楽しむことが出来ました。ありがとうございました。

これまで働いて来た事の振り返りというより、H29 年 11 月から高血圧の薬をのむようになり気を付けている事



になりますが、手のかからない切った生野菜のキャベツなどのきざんだ袋を買って来てレタス、スライス玉ねぎ、わかめ、トマトをのせて、コンビニの色々な味のドレッシング（1回使い切りタイプ 19～29 円、冷蔵庫に何本もドレッシングを入れられないので）をかけて、1日に1回は食べています。野菜、キノコ、海藻などで1日に必要な摂取カロリーをこえないようにしたりして、4～5kg へった体重を元に戻さないようにしています。味が同じものを食べるのはあきてしまうので、お菓子も甘いジュースもスイーツも食べますが、カロリーの本や食べ物の袋のカロリー表示を見たりして、出来るだけ食べすぎないようにしたり、たまに安いスポーツ施設を利用して運動をして、仕事をするのが私のできるダイエット法です。

（常盤公園 三宅 陽子）

2018 年度横浜 S S J 研修旅行

修善寺研修旅行～職員従業員利用者計28名

大型バスで行ってきました！

秋の恒例となった、横浜 SSJ 研修旅行を実施しました。

一日目は、世界遺産の韮山反射炉を観光し、昼食では皆さん各テーブルで網焼きを美味しく召し上がっていましたね。伊豆の国パノラマパークでロープウェイに乗り、見晴らしの良い景色を眺め、足湯でほっこりリフレッシュ。浄蓮の滝を見学してから旅館へ、宴会でのカラオケ大会や温泉を楽しみました。



二日目は、朝散歩へ GO♪ 柔らかい朝日を浴びながら修善寺温泉街を散策しました。ちょうど菊祭りのベストシーズンで秋の色づきも感じられて気持ち良かったですね。竹林の小径で見上げた景色が印象的です。沼津港深海水族館では珍しい魚に感動しました。

今回初めて幹事を担当しましたが、ベテランメンバーさんや先輩方に教わりながら一緒に進めてまいりました。



当日は天候にも恵まれ、また、全員が時間を守り、協調性を発揮されスケジュール通りに行程を終えることができ安堵しました。お陰様で伊豆の旅を満喫！心に残るとても楽しい研修旅行となり、心から感謝いたします。また、次のイベントを楽しみに、日々の仕事に励んでまいります。

（多機能型事業所ジョブアシスト横浜 内田智子）

事業所紹介

就労継続支援A型事業所 久保山・戸塚事業所

昨年度から久保山・戸塚事業所では食事提供を始めました。事務所で作ったお弁当を届けています。現在では、たくさん注文があり、ボリューム満点で栄養バランスの整ったお弁当は多くの職員・従業員に愛され、楽しみとなっています。

今年度は、調理に携わる職員と希望する従業員とで食事レクを開催しました。第1回目は8月18日、第2回目は9月22日の全2回で行いました。そこで、今回は食事レクに参加したみなさんの声をお届けしたいと思います。

1回目の食事レクでは、うすやきたまごを作り、はじめてだったが、上手にでき、うれしさとおどろきがありました。

2回目の食事レクでは、ギョーザを作り、ギョーザの中身にやさいを入れたが、とてもおいしかった。これからは、家でも作ってみようと思います。

(久保山・戸塚事業所 C. K)

第一回食事レクリエーションは、普段から調理のお弁当作りに携わっている人、そうではない人の6名の参加でした。メニューは、失敗しない鶏の照り焼き、春雨サラダ、かぼちゃのカレー炒め、ピーマンのじゃこ炒めと、多彩なメニューでした。

野菜を洗う人、具材を切る人、調味料を量る人、みんなでそれぞれを分担して、1から作り始めました。それぞれが分担したものがやがて合わさり、1つの料理として出来上がっていききました。そして、最後の仕上げに職員の後藤さんが、失敗のない鶏の照り焼きの作り方のコツを実演して教えてくださいました。

みんなで協力しあって出来上がったお弁当は、格別に美味しかった気がします。

それを機会に今まで調理の仕事に携わっていなかった人も料理をする事の楽しさや喜びを知ったのでしょうか。調理の仕事をはじめた人もいました。

これからもこのような機会を作って頂き、料理に興味をもってくれる人が増えると良いなと思っています。

(久保山・戸塚事業所 佐藤 由加里)



普段の調理は2人で作るのに対して、レクでは何人かで作ったのでとても楽しかったです。

作った中でも印象に残ったおかずが餃子でした。餃子のたねを作るのに材料をみじん切りにするのと、餃子のたねを餃子の皮で包むのが大変でしたが、食べてみたらとても美味しかったので良かったです。何人かで作ったり、食べたりできて良かったので、また調理レクがあったら参加したいと思いました。

(久保山・戸塚事業所 T. T)

初回の調理実習は初めてで少し緊張しました。メインは鶏の照り焼きでしたが皆さん分担して調理が出来ました。ただ教わる人が多かったので職員さんに作業工程を確認するのに時間がかかってしまいましたが普段作らない料理だったので勉強になりました。楽しく美味しく出来ました。

2回目の調理実習はメインがぎょうざでしたがぎょうざの作業に手間がかかってしまったのと調理に大幅に時間がかかってしまったので教える人が1人で教わる人が多かったのではなかなか作業が思うように出来ませんでした。

次回また調理実習をやるとしたら教える人を2人位に増やして欲しいです。そうすれば教わる人の人数が多くても作業がスムーズにできると思います。

だけど調理実習をやってみて為になったし美味しく楽しく出来たので良かったです。

また次回調理実習があるとしたらまた参加したいです。ありがとうございました。

(久保山・戸塚事業所 日高 昭則)



私は久保山の調理の仕事を今年の2月から始めました。家で作る夕食メニューのレパートリーを少しでも増やすために役に立ってくれるかもしれないと思ったからです。調理の仕事は職員さんと一対一で行います。調理の仕事に慣れてきたとき、今度調理レクがあると聞いて参加してみようと思いました。レクの参加者は男性メンバーも含め、計6名でした。普段から調理の仕事に入っているメンバーもいましたが、調理初参加のメンバーもいました。メニューは調理スタッフさんが事前に決めてくれていて、参加者は全員で買い出しから行いました。調理の作業はメニューごとに作る人が分かれて行いました。みんな最初は慣れない様子でしたが、スタッフさんの指導のもと、楽しそうに作業していました。みんなで頑張って作った料理は、鶏の照り焼き、春雨サラダ、かぼちゃのカレー炒め、ピーマンのじゃこ炒めで、どれも美味しくて大満足でした。最後に一人ひとり感想を言って終わりました。とても充実した時間でした。調理レクを体験したメンバーが、後日、調理の仕事に入るようになりました。私の勝手な想像ですが、みんな料理に興味を持ってくれたのかなあと。今度、家族のために習った料理を作ってみたら、きっと喜んで食べてくれると思います。また、調理レクがあったら、参加したいと思いました。

(久保山・戸塚事業所 松田 由紀子)

今回は、普段調理でお弁当作りをしている人だけでなく、初めて参加する人もいて、これを機に調理のシフトに挑戦する人も出てきました。みんなで協力し合って作る料理はとてもおいしそうですね。僕も第一回目のお弁当を頂きましたが、とてもおいしかったです。好評で、今後もあれば参加したいという声を聴くことが出来たので第三回目、四回目と続けていきたいものです。

今後、調理レクだけでなく、従業員のみなさんが楽しく、そして生き生きと参加できる活動を企画、実施していきたいと思っています。

(久保山・戸塚事業所 職員 小澤 大夢)

～就労継続支援A型 横浜SSJ北部事業所～

今年度、横浜SSJ北部事業所では2名の方が当事者職員に登用されました。10月16日から3カ月以上経過し、繁忙期も経験された今、当事者スタッフとしてふりかえり職務と向き合っているのか伺いました。

また、先に当事者職員として働かれている方からも一言ずつ貰い、本人達にはやる気に変えて頂き、読んでくださった方々にはやりがいについて考えて頂ければと思います。

私が当事者スタッフになったのは平成30年10月16日の辞令が出てから、現在の繁忙期2月になり思うことは、従業員と当事者スタッフの時給差が殆どないので、日に日に帰宅してからの家族に話す話題は、疲れがひどいので、仕事の愚痴を言いまくることをしていました。職場では、従業員の1時間ごとの休憩が、うらやましくって「僕も休憩一緒にとりたいたい」などと冗談を言っていました。当事者スタッフになるきっかけは、自立した生活が最低条件なので、仕事の事、仕事の悩み、新人従業員さん、あるいは新人職員との関わりなど、関わり方が間違っていないか客観的に自己評価し、他の正職員、職場の責任者と相談して、勤務日にはA休憩室、B湯茶、C外・ホール、D売店のポジションを、その日に仕事がある予定だった従業員が体調不良で欠席した時は、自ら進んでA休憩室、B湯茶を掛け持ちで仕事をしたりC外・ホールで欠員が出たときには、C外・ホールを従業員と一緒に清掃をしながら清掃後のホールの点検の掛け持ちで仕事をしたりして、少しでも従業員さんの負担を少なく努力し、欠員がいても通し勤務者が多い時には無理を言って、その日の業務をスムーズに行えるように、「今日は通し勤務者がいるから、誰か途中で申し訳ないけど、B湯茶に1人まわってくれとありがたい」とその日の責任者に提案したりしながら現在に至っています。大変だけど、今後は当事者スタッフで勤務日数を増やせるように精神的・体力的に成長していきたいです。

(北部事業所 当事者スタッフ 竹 伸夫)

こういう事を書かなくてはならなくなり、難しいなと思う。

新人に仕事のやり方を教えること、ゆっくり丁寧に、命令口調にならないように教えること、ホールの点検、売店業務、日報をコピーする事。当事者スタッフでも従業員の一番近い存在であること、メンバーさんが見落とした汚れを見つけてキレイにすること、スタッフが掃除する所を掃除すること〈A早〉、15日間、勤務すること。

以上のような事を全部やるのは難しい。でも一つでも多く、出来るようになればなと、思っています。

(北部事業所 当事者スタッフ 横山大介)

○新しく当事者職員になった二人へ、激励の言葉を代表して飯塚さんから頂きました！

当事者スタッフ採用おめでとうございます。自分自身を成長させることができる貴重な場だと思います。日々、成長できるように、一緒に頑張りましょう！

(北部事業所 当事者スタッフ 飯塚真弓)



地域活動支援センター“すきっぷ”の活動

<最近の活動から>

『作品作り』

夏の「金魚作り」に引き続き、秋から「ダルマ作り」を始めました。ビニール袋に新聞紙を詰め成形したものにちぎった新聞紙を貼っていき、その上に和紙を貼り付けた後、彩色します。

皆で一緒に作っていても、いつの間にか個性豊かなダルマさんたちが出来上がっていきます。それも“すきっぷ”ならではの楽しみの一つです。

このダルマさんたちは、昨年11月の中区障がい者団体合同展示会の“にぎやかし”として登場させていただきました。また3月15日～17日に横浜新都市ビルで行われる<障がい者の作品展>にも展示しました。



『コラージュ』

11月から毎週水曜日の午前中、読まなくなった雑誌やカタログなどを持ち寄ってコラージュ（貼り絵）をしています。

テーマはズバリ“今の自分”。思い思いに切ったり貼ったりしながら自分の心に向き合います。上手下手は関係ありません。理屈ではなく感覚を大事に、自由に自分を表現していただいています。

できあがった作品はホワイトボードに並べて、皆でそれぞれの説明を聞きながら鑑賞し、作品に込められた思いを分かち合う時間を持ちます。



同じものは一つもありません。同じメンバーさんの作品でも毎週毎週変化しています。その日その時感じているもの、心を占めているもの、大事にしているもの、とらわれているもの…さまざまです。

今の自分の心の状態に気づき、つき合っていく。

もしくは向き合うエネルギーが足りない時は、お気に入りのハンカチでそっと包んで向き合える時を待つ……そんな時間にしていただけたらいいなと思っています。



<2019年度は…>

なお“すきっぷ”は、2019年4月1日から就労継続支援B型事業所へ新しいスタートを切ります。内職作業を取り入れつつも、これまでの“すきっぷ”の魅力を残した居心地の良い事業所づくりを目指します。応援よろしくお願い致します。

(すきっぷ職員 庄内成美)

～多機能型事業所 就労移行・就労継続支援B型事業所
ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズ～

作業紹介 ～所内活動編～

ジョブアシスト横浜・ワークショップメンバーズ（以下ジョブワーク）ではこの1年間も様々な作業に携わってきました。今回は、ジョブワークの作業について所内活動編と所外活動編の2つに分けてご紹介したいと思います。そもそもジョブワークの作業は1階の喫茶とちの木、2階の印刷業務、3階の内職作業、4階の昼食調理に分けられます。

1階：喫茶とちの木

とちの木はジョブワークのみんなの交流の場であり、地域との繋がりの中にもあります。メンバーの作業としては接客や簡単な調理などがあります。人気メニューはパンケーキ200円（SSJ価格）です。

3階：内職作業

3階では、印刷業務で刷った印刷物の検品、医療用品のラベル貼りやキットの作成など、その日によって様々な作業に従事しております。

2階：印刷業務

2階印刷業務では、主に行政から受注した封筒やチラシ・パンフレットなどを印刷しています。メンバーには印刷機の操作や製本、納品に携わっていただいております。

4階：昼食調理

その日に注文された数だけ弁当を作っています。当日のメンバーで当日のメニューを決めて、買物から調理、盛り付けまで行っています。



作業しているメンバーの感想は・・・

- ◇3階作業はスシローです。（いろんな作業が楽しめるから）
- ◇3階作業は普段はなせない人とも話しながら作業ができるところが好きです。
- ◇普段家でやらない事にも挑戦出来て、その日の体調や気分に合わせて作業ができる。
- ◇黙々と集中できる。今までは自分を鍛える場所だったけれど今はメンバーと話ことができ、落ち着くことができる癒しの場所。
- ◇料理を学びたくて4階の調理作業に入っている。今ではそこでの経験を実習に生かしている。
- ◇鶏肉の煮物が得意な料理です。普段はコミュニケーションが苦手だが、4F調理の作業だと、メンバーさんと自然にコミュニケーションが図れるので、苦手の克服につながっています。
- ◇作業をして工賃をもらえる喜びを感じる。稼いだ工賃は生活費に充てている。食事などの趣味に使うことも楽しい。
- ◇じっとしているよりも、動きのある作業のほうが好きで、自分に向いていると思う。以前に引っ越しの仕事をしていた事もあり、ワークでの力仕事くらいなら軽々できる。

次回は所外活動編を紹介したいと思います。



メンバー・従業員の「声・こえ・コエ」

今回のテーマは「恋愛」です。皆さんにはテーマだけ伝えて、自分でイメージを膨らましてもらっています。大変悩まれて書いて頂いたテーマだったと思います。協力してくださり、ありがとうございます。

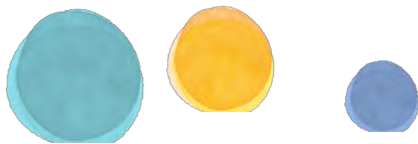
恋愛について

私は、今まで同棲した人とのことについてお話しします。

私が同棲した時に感じたことは、相手が障がいのある私を理解しようとしてくれるのはわかるけれど、常に壁を感じていました。例えば、半年以内に就職しろと言われ、それは障がいのある私にはハードルが高いことを説明すると、じゃあ1年以内でと言われました。また他にも、お互い病気に対する理解がある分、共感しやすいけれど、具合が悪くなる時が重なると共倒れになってしまい、お互いのネガティブな感情に引きずられてしまうこともありました。

同棲する際には、相手の生活に合わせないといけない部分も多く、お互い負担になってしまったこともありましたが、金銭面で楽な部分は多く、なにより寂しくなかったです。

(横浜SSJメンバー 匿名希望)



恋愛について

20代の頃、普通の人より4年も遅れて入った大学で、好きになったヒトは、委員会の副委員長を務めたOBだった。

その人が社会に出てから、恋愛は始まるかと思ったが、結局何も始まらないまま、不完全燃焼というカタチで終わった。その時、わたしは発症して失業していた。

それから、30代の時、恋に落ちた。相手は、国家権力の末端で、未来のエースだった。

わたしと彼は相思相愛だった。楽しかった。ラブラブだった。しかしながら、大きな間違いをおかしていた。一度も、まともに会ったことがないのだ。学生時代の思い人が、仕事を理由に全く会おうとしてくれなかったために、それが当たり前になっていたのだった。

そして、一度も会えない相手とは、なかなか会えず、だんだん、恐ろしいことをわたしの耳元でささやくこともでてきた。怖くなった。でも、すぐにラブラブになった。怖くなったり、ラブラブになったり、その山谷は激しかった。

ここまで、読んできた方はすでにお気づきであろうが、30代の時の相手とは、恋愛妄想の対象であり、実在しない人物である。

これに気付いた時も、退院後、しばらく経ってのことだった。

要するに、肩書のある、忙しい人に勝手に恋心を抱き、病気になってしまったのだ。

現在、40代である。

実のある恋愛はできるのか？

我ながら甚だ疑問のまま、どうにか生きている。



(すきっぷ みやび ゆうき)



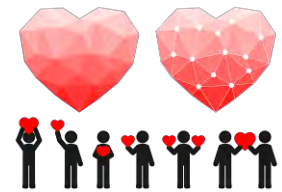
恋愛について

私の若い頃は、男の人に声をかけられ、いっしょに食事をしたり、話したり、気軽に出来たものでした。でも、今は、出会い系サイトなどで、知り合って事件にまきこまれたりするケースがあるので、それも考えものです。軽々しい行動はできない世の中になりました。

(久保山・戸塚事業所 C. K)



私の恋愛について



私の恋愛経験は、とても少ないです。学生時代にあった経験と、あともう1件のみです。

学生時代、同じサークルの隣に座っていた女性に、「先輩彼女作らないんですか？」と聞かれ、当時私は既に発症していた病気の事もあり「めんどくさいからね～」と私は言って適当にごまかしながらやっていました。しかし、卒業する頃になると、色々な事が思い出され、後悔もしました。合宿先の千葉の海を見ながら、ひとりで泣いていました。

話はちょっとかわりますが、今でもお正月になると学生時代の仲間から家族仲睦まじい写真が私のもとへ送られてきます。そんな仲間の写真を見ると正直な話し、羨ましいナと思ったり自分は病気になって、年もってしまったので、今後の恋愛は難しいかな？と思ったりします。

冒頭で私が書いたもう1件については数年前に出会いがありそしてお別れもした事なので、まだ私の心の整理もついておらず、お相手の方にも迷惑がかかると思う事なので、申し訳ありませんが、この文章には載せられません。

今振り返れば、よき青春の思い出です。そんな経験を通して、とある本に書いてあった『一生懸命努力すれば、成功は手に入るかどうか分からないけれど、成長は必ず手に入る』と信じて、今後の私の人生に生かしていきたいと思います。

最後に色々な意味で私にとっても、多くの皆さんにとっても春が来る事を、心待ちにしています。



(横浜SSJメンバー 匿名希望)



《編集後記》

今回で平成最後のSSJニュースとなります。元号が変わるだけで、大きな変化はありませんがテレビやニュースも平成の総まとめに入っていますね。自分にとっても『平成』はどんな時代だったのかと、思いをはせてしまいます。皆様にとってもどんな時代だったのでしょうか。(まめ)